

石岡地区保護司会 会長賞

「非日常から見えてくるもの」

石岡中学校 三年 齊藤 未季乃（さいとう みきの）

「鹿児島の特攻資料館に行つて、生きていること、そして自分が卓球がこつやうって当たり前にできていることが当たり前じゃないというのを感じたいと思つて…」今年の夏にパリオリンピックの卓球女子シングルスで銅メダル、団体で銀メダルを獲得した早田ひな選手が帰国記者会見で発した一言に衝撃を受けた。

左手にケガを負いながら必死に獲得した個人戦の銅メダル、チームメイトと励ましあい獲得した団体戦の銀メダル。テレビを通して伝わってくる一瞬にかける熱量に卓球に縁のない私でも自然と応援に力が入った。

日本国民の多くに感動を与えた早田選手が帰国後の会見で冒頭、「アン

パンマンミュージアムでポーチをつくりたい」と話していたので、かわいいなと勝手に親近感がわいていたが、早田選手が発した次の言葉に、これまでの選手生活の中で重圧と闘いながらも早田選手自身が心に抱いていた想いを言葉にしたのだらうと思うと、私自身もいろいろと考えさせられた。

犯罪や非行をした人の多くが再び罪を犯すケースがあると知って驚いた。初犯を防ぐことが重要と勝手に思っていたが、再犯を防ぐために社会の支えや取り組みがあることを初めて知った。

犯罪や非行をするきっかけは社会からの孤立が原因の一つとして挙げられている。再犯を防ぐ支援方法と

して、多くの人と関わる機会を増やし、対象者の成長とともに自分たちも学び続ける意思を持つことが重要であるという記事を目にした。

人との関わりの中で、自分自身も成長することを目的とすると、意識の共有と能動的に取り組むことがとても重要であると考ええる。

よく聞く音楽を友人もたまたま聞いていたら、必然的に話が盛り上がる。そこから知識を増やし、興味もわく、ちょっとした友人との音楽の話から毎日が楽しくなった経験は、私だけでなく、誰にでもあることと思う。

この夏、パリオリンピックで女子卓球を見ていて、早田選手の会見に心を打たれた人がいたとしたら、そ

の人たちと一緒に鹿児島県の知覧特攻記念館に行きたいという企画を考えたい。

私自身、戦争というものを全く知らない。日本は唯一の核爆弾を落とされた国として取り上げられるが、経験した人たちが少なくなっていて、やがて誰もいなくなってしまう。知らないことが多い戦争について、興味がある今なら、吸収するものも大きいと思える。

生きている上で、楽しいこともあるし、悲しいことや辛いこともあると思う。誰もが不安を抱えて生きていると思う。

記念館に行けた時には、今、何気ない毎日がありがたいと思える気がすると思うし、捉え方は個人によって違うにしても、他人の考えを聞くことで、また自分自身の成長にもつながるような気がしている。

戦争と同じで、犯罪や非行した過去を変えることはできないが、繰り返し返さないことが大切で、これからの未来は自分自身によって変えられること、今自分が生きていることを改めて見つめなおすことができると思

える。

いつか、どこかのタイミングで支援を手伝える立場でも、そうでなくても、鹿児島の知覧特攻記念館に行きたいと思う。そして願わくば、早田選手からも記念館に行った感想や会見で発言した理由なども直接、話を聞いてみたい。

